

CSR₂₀₀₉ Report

Corporate Social Responsibility

Value Integrator

人・モノ・社会をベストソリューションでつなぎ、
ビジネスに新たな価値を創造します。



表紙について

人・モノ・社会を結びつける
三菱UFJリースの役割をリボンで表現。
そこから創造される新しい価値をお客さまに
ご提供してまいります。

 **三菱UFJリース株式会社**
MUFG

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング
TEL ▶ 03-6865-3002
HP ▶ <http://www.lf.mufig.jp/>

 <p>みんなで止めよう温暖化 チーム・マイナス6%</p> <p>三菱UFJリースは、地球温暖化防止の国民運動「チーム・マイナス6%」に参加しています。</p>	 <p>ミックス品 FSC認証林及び管理された森林からの製材グループです。 www.fsc.org Cert no. SGS-COC-1815 © 1996 Forest Stewardship Council</p> <p>管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。</p>
 <p>インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。 ※VOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds)</p>	 <p>印刷時に有害な廃液がでない水なし印刷方式で印刷しています。</p>
<p>色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。</p>	

 **三菱UFJリース**
MUFG

コーポレートメッセージ

当社のコーポレートメッセージ「Value Integrator」には、「複数の有形・無形資産＝現在価値(Value)を、リース&ファイナンスという手法で統合(Integrate)し、新たな価値を創造していく」という思いを込めています。

Value Integrator

三菱UFJリースは、将来の新しいビジネスの創造を通じて、お客さまの企業価値向上に貢献してまいります。



INDEX

■コーポレートメッセージ	1
■トップコミットメント	3
■会社概要	4
■事業内容	5
■三菱UFJリースグループ	6
■CSR経営の考え方	7
■三菱UFJリースのCSR	9
■特集／排出権関連ビジネス	13
■株主・投資家のみなさまとともに	15
■お客さまとともに	16
■社員とともに	17
■地域社会とともに	21
■環境のために	22

編集方針

本レポートは、三菱UFJリースグループのCSRに対する考え方・活動などを、ステークホルダーのみなさまにできるだけわかりやすくご報告することを目的として発行しています。

今回は、2008年4月にスタートした中期経営計画「Vision 2010」のもとで取り組んでいるさまざまな活動について、具体的にお伝えできるように努めました。中でも、2008年度より施行されましたJ-SOX法に伴う内部統制強化への対応や、グローバルな金融ビジネスに即した人材が求められる中、社員のモチベーションを高め、意欲・意見を経営に活かすための取り組みについて詳しくご紹介しています。三菱UFJリースグループでは、本レポートをステークホルダーのみなさまとの重要なコミュニケーションツールと位置づけ、今後とも対話を促進していきたいと考えています。ぜひ、忌憚ないご意見・ご感想をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

発行月

2009年7月

対象期間

2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)
(一部、対象期間外の活動を含んでいます)

対象範囲

三菱UFJリース株式会社、およびグループ会社の取り組みを対象としています。

お問い合わせ先

三菱UFJリース株式会社 広報IR部
東京都千代田区丸の内1-5-1
新丸の内ビルディング
TEL▶03-6865-3002
HP▶<http://www.lf.mufg.jp/>

当社に関する情報について



当社の商品・サービスおよび当社に関する各種情報につきましては、ホームページ上に掲載しておりますので、下記URLもご参照ください。

HP▶<http://www.lf.mufg.jp/>

事業活動を通じてCSRを実践し 社会に貢献してまいります。

代表取締役社長

小幡 尚孝



経済社会構造が大きく変化している今、社会の中で求められる企業の役割も大きな変化を遂げております。三菱UFJリースでは、本業であるリース&ファイナンスの手法を通じて、お客さまの多様なニーズに最適なソリューションをご提供していくことが当社の使命であると考え、商品・サービスの拡充を図ってまいりました。

三菱UFJリースとしてスタートした2007年4月以来、当社は組織やシステムの再構築など、今後の営業活動を支えるインフラの整備と強化を進めてまいりました。これらの土台をもとに、付加価値ある商品・サービスのご提供を通じて、お客さま、株主・投資家の方々、そして地域社会を含むすべてのステークホルダーのみなさまからの信頼確立にむけたCSR活動の取り組みを実施しております。

当社では、モノ(=物件)を扱う「総合ファイナンスカンパニー」という特徴を活かし、リース・レンタル物件の3R(リデュース、リユース、リサイクル)や中古物件関連ビジネスにより、資源の有効活用や廃

棄量の低減に努めるなど、早くから循環型社会の構築に貢献してまいりました。

また、省エネ化を推進するESCO事業や、CO₂削減に寄与する排出権関連事業など、環境に配慮したサービスも積極的に展開しております。

このほか、PFI事業による地域の教育施設や公共施設の整備・運営など、社会的責任を果たすべく、当社の特徴を活かしたさまざまな取り組みを進めております。

企業統治の面では、お客さまや株主・投資家の方々、地域社会を含むすべてのステークホルダーのみなさまとの揺るぎない信頼関係を確立するうえで、透明で健全な経営の実践が重要であると考え、コーポレートガバナンスの強化に努めております。「経営と執行の分離」の明確化や、社外監査役の積極登用など、経営の透明性を高めております。コンプライアンスについては、グローバルベースでの徹底・浸透を目的として2008年4月に国際法務コンプライアンス室を設置いたしました。さらには、内部統制、情報セキュリティ体制につい

ても、さまざまな活動・施策を実施し強化を図っております。

事業活動を通じてCSR活動を実践していくには、社員一人ひとりが真摯に社会的課題に向き合うことが必要不可欠です。このため、当社では各種研修をはじめとする教育体制にも力を入れております。またワーク・ライフ・バランスなど、より働きやすい環境づくりを積極的に推進し、社員の意欲向上を図っております。こうした取り組みを確実に進めることで、将来の担い手を育成し、ステークホルダーのみなさまにご提供する商品・サービスの一層の向上につなげていきたいと考えております。

このレポートには、三菱UFJリースおよび三菱UFJリースグループが企業市民として実施してきた活動をまとめました。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想を賜りますよう、お願い申し上げます。

会社概要 (2009年3月31日現在)

- 商号
三菱UFJリース株式会社
〈Mitsubishi UFJ Lease & Finance Company Limited〉
- 本社
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
- 設立
1971年4月12日
- 事業内容
各種物件のリース
各種物件の割賦販売
各種ファイナンス業務/国際業務 他
- 資本金
33,196,047,500円
- 株式
上場証券取引所
東京証券取引所 市場第一部
名古屋証券取引所 市場第一部
- 決算期
3月31日

事業内容

総合ファイナンスカンパニーとしてリースの枠を超えた進化を続けています。



ファイナンスリース／WEB関連ビジネス

企業の合理化や効率化をサポートする金融サービスとして「ファイナンスリース」や「割賦販売」に取り組んでいます。また、お客様の業務効率向上をインターネット上で支援する付加価値型サービス「e-Leasing Direct」をご提供しています。



オペレーティングリース

モノの価値に着目し、「半導体製造設備」や「産業・工作機械」などを、お客様の生産計画に合わせて効率的にリースしています。



中古機器売買ビジネス

お客様の資産有効活用を支援する「半導体製造設備」、「工作機械」や「医療機器」といった中古機器の売買や、「リースアップ物件」の売却も行っています。



不動産関連ビジネス

事業用借地権を活用した「シンフォニー（建物リース）」、テナント入居を容易にする「店舗転賃システム」、商業、オフィス、物流用不動産を対象とした「不動産関連ファイナンス」に取り組んでいます。



国際関連ビジネス

アジア、アメリカ、ヨーロッパの各拠点で、会計・税務などの制度面も含め、お客様の海外展開を多面的にサポートしています。



資産管理ビジネス

PCやソフトウェアなどの資産導入から、コーポレートガバナンス強化に対応するセキュリティやライセンス管理、そしてデータ消去、廃棄まで、トータルにアウトソーシングできるソリューションを提供しています。



金融ストラクチャリング

各種債権のオリジネーション、シンジケーション、ポートフォリオ機能によって、財務・事業戦略をサポートしています。



PFIビジネス

「PFI (Private Finance Initiative)」では、大学などの教育施設や公共施設の整備運営に対するファイナンスの提供から、プロジェクト全体のコーディネートまで積極的に取り組んでいます。



環境関連ビジネス

「環境リサイクル事業」、バイオマスや風力発電などの「新エネルギー事業」や、ビル全体の省エネルギー化システムを提案し、サポートする「ESCO事業」、「排出権関連ビジネス」などに取り組んでいます。



医療関連ビジネス

「最先端医療機器のリース」から、「診療報酬債権ファクタリング」や「開業サポート」まで医療関連ニーズに幅広く対応しています。また、中古医療機器の売買にも取り組んでいます。



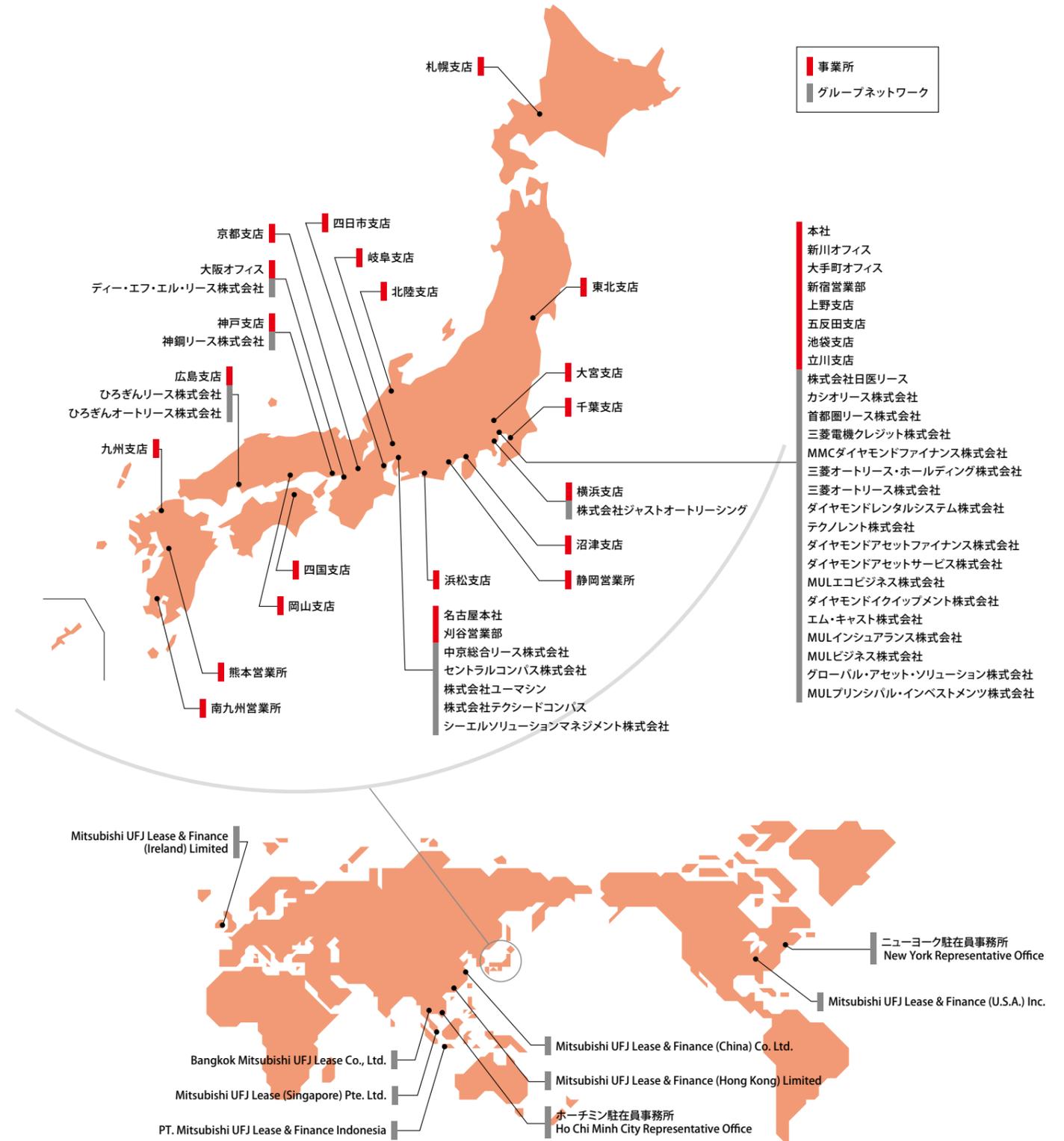
事業リスクテイク

金融・非金融分野のプレイヤーとの積極的な提携により、様々な事業リスクに取り組んでいます。

三菱UFJリースグループ

国内外に広がるグループネットワークで
お客様の多様なニーズに最適なソリューションをご提供します。

三菱UFJリースグループは、各分野に強みを持つグループ会社を日本国内はもとより海外にも展開。
グループの総合力でお客様のニーズにお応えします。



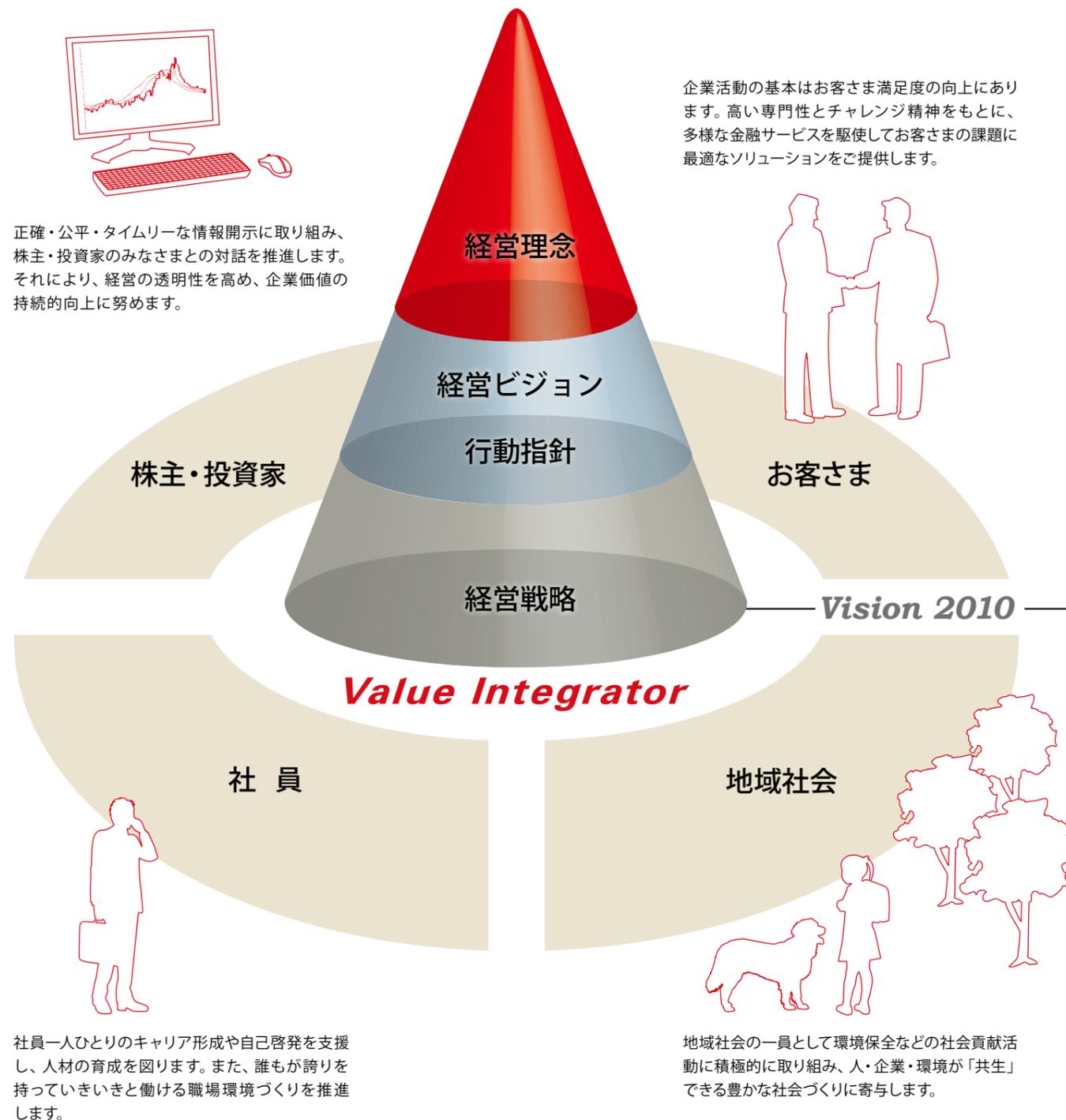
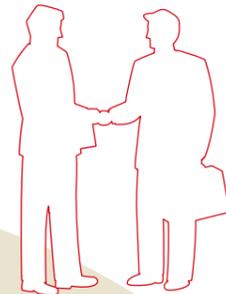
CSR経営の考え方

環境・社会・経済面での社会的責任に取り組み
すべてのステークホルダーから信頼され続ける企業に。



正確・公平・タイムリーな情報開示に取り組み、株主・投資家のみなさまとの対話を推進します。それにより、経営の透明性を高め、企業価値の持続的向上に努めます。

企業活動の基本はお客さま満足度の向上にあります。高い専門性とチャレンジ精神をもとに、多様な金融サービスを駆使してお客さまの課題に最適なソリューションをご提供します。



社員一人ひとりのキャリア形成や自己啓発を支援し、人材の育成を図ります。また、誰もが誇りを持っていきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

地域社会の一員として環境保全などの社会貢献活動に積極的に取り組み、人・企業・環境が「共生」できる豊かな社会づくりに寄与します。



経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します。

- お客様にベストソリューションを提供し、企業価値の持続的向上に努めます。
- 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献します。
- 社員一人ひとりが意欲と誇りを持って活躍できる環境を提供します。

Vision 2010



経営ビジョン

金融と商流を融合した事業金融分野で圧倒的なリーダーを目指す。

高度で洗練された「事業金融機能」の提供を通じて、「モノ」、「サービス」、「情報」、「資金」といった「財」を相互に結び付けるコーディネーターとなり、お客様にとって真に価値あるサービスを提供し、すべてのステークホルダーに貢献する企業であることが、三菱UFJリースの存在価値です。

行動指針

- 三菱UFJリースならではのリスクテイク
金融機能と商社機能を持ち併せた「三菱UFJリース」ならではのリスクテイク
- 課題解決に向けて果敢にチャレンジ
お客様の課題への嗅覚を磨き、失敗を恐れず解決に向け果敢にチャレンジ
- 戦略を伴ったスピーディーな行動
様々な戦略に基づくスピーディーな行動
- ソリューションを実現する専門性
お客様の課題を解決する真に価値あるソリューションを実現する専門性の向上
- 社会的責任への真摯な取り組み
すべてのステークホルダーからの信頼確立に向けた真摯な取り組み



経営戦略

経営戦略遂行にあたってのキーワード

- スピード
他の追随を許さないために、速やかに戦略に着手し、全速力で戦略を遂行する。
- 突破力
環境変化をチャンスと捉え、戦略に自信を持って、怯むことなく戦略を遂行する。
- 変革力
自己変革に恐れずに取り組む。
- 総合力
三菱UFJリースグループが持つ全ての資源、ノウハウ、機能を結集して戦略を遂行する。

経営戦略の全体構成

- 成長戦略
 - I バリューチェーン上の提供機能拡大と多様なリスクテイクによる三菱UFJリースならではのサービス拡大
 - II グローバルベースでの事業展開の加速
 - III お客様接点の強化
 - IV 外部成長戦略の推進
- 経営基盤強化戦略
 - I 経営管理の高度化
 - II 営業力の強化、手法の高度化
 - III 効率性の追求
 - IV IT戦略の強化
 - V 新たな企業風土の醸成
 - VI 人材マネジメントの改革
 - VII 信頼の確立

危機管理体制

三菱UFJリースでは、事故や障害が発生した際に、経営に与える影響を最小限にとどめることができるよう、危機管理方針を明確にしたうえで、危機管理規程やマニュアルを整備しています。事態の類型別に主管部店や報告ルートを決めており、また、危機の状況により警戒事態・危機事態・非常事態の3つのステージごとに対応を定めることで個々の危機に対して即応する体制をとっています。

なお、2008年度は新型インフルエンザ対策などのBCP（事業継続計画）策定に取り組み、危機管理対策の充実に努めています。

危機管理方針

三菱UFJリースグループは、危機発生時においても社会からの信頼を守ることを最優先し、以下の行動方針を基に、意思決定、行動判断を行うこととする。

■企業として求められる責任を果たす

三菱UFJリースグループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、関係者の利害に関わる情報を積極的に開示するなど、企業として求められる責任を果たす。

■コンプライアンスを徹底する

法令を厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業姿勢を示す。

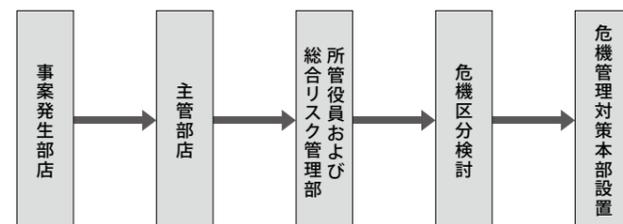
■お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努める

危機発生時においても、お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努め、相互の信頼関係を維持する。

●危機区分と対応態勢

危機区分	危機の状況	対応態勢
警戒事態	対応の遅れや誤りにより「危機事態」に発展する可能性のある状況	主管部店対応
危機事態	業務の著しい遅延や中断、および、企業の存続が危ぶまれる信用失墜の危険性が高まった状況	危機管理対策本部 (本部長：主管部店所管役員)
非常事態	「危機事態」の中でも経営・業務への影響が特に大きく、社長の意思決定が必要な状況	危機管理対策本部 (本部長：原則、社長)

●危機対応のフロー



情報セキュリティ管理

三菱UFJリースでは、お客さまの個人情報をはじめとするさまざまな情報の保護の重要性を認識し、情報セキュリティ管理体制の強化に取り組んでいます。

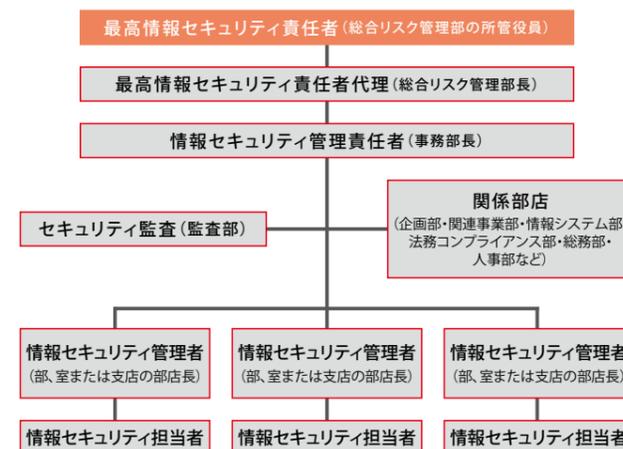
情報セキュリティ管理規程およびマニュアルにおいて、グループ全体における共通理念である「情報セキュリティ方針」を定めるとともに、情報資産の重要度に応じた分類と、利用、管理、廃棄のルールなどを定めています。

また、派遣社員を含む全社員に年4回情報セキュリティチェックを実施するなどの社員教育を徹底すると共に、入退館管理システムの設置や、パソコンからの情報流出を防止するセキュリティソフトの導入など情報漏えいを検知・抑制する対策を講じています。

さらに、こうした情報セキュリティ管理が適切に行われているかをチェックするためにセキュリティ監査を実施しており、必要な場合には社外の専門家に依頼し、助言を得る体制も整備しています。

また、個人情報については、法令に基づいた適切な取り扱いを徹底するため、「個人情報保護規則」を制定し、情報の入手・管理方法について規定しているほか、社員教育用の「個人情報マニュアル」も整備しています。

●情報セキュリティ管理の組織



コンプライアンス意識の向上

社員一人ひとりがコンプライアンス意識を高め、日々の業務の中で実践していくために、コンプライアンスに関する研修に力を入れています。

新入社員や初任管理者向けの基礎研修の中でコンプライアンス意識を徹底するほか、コンプライアンス推進委員研修やフィードバック研修、部店内重点テーマ研修など各種コンプライアンス研修を定期的実施しています。

その推進状況は、e-ラーニングによる知識習得テスト、チェックリストによるセルフチェックなどによってモニタリングするほか、一部業務については法務コンプライアンス部が各部店を訪問し業務運営状況の確認も行っています。また、社員がコンプライアンスについて相談できる窓口として「コンプライアンス・ホットライン」を設置。困った時や迷った時には必ず報告・相談するよう周知徹底しています。

国際法務コンプライアンス室の設置

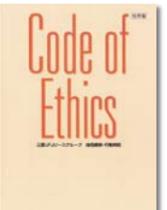
国際業務の拡大に対応して、2008年4月に国際法務コンプライアンス室を設置しました。海外拠点におけるコンプライアンス体制の整備と、国際案件の法務チェック機能の充実化などを目的としており、各国における法規制を常に注視しつつ、適宜実状に合った体制整備を行います。

社内委員会

三菱UFJリースでは、リスク管理、環境、システム、ALM (Asset Liability Management)、コンプライアンス、情報開示の社内委員会を設置。業務執行ラインからは独立して、各経営課題に取り組んでいます。

グループマネジメント

三菱UFJリースグループとして価値観や倫理観を共有し、お客さまや社会から信頼を得るために、グループマネジメント体制の強化に努めています。グループの一員として果たすべき基本的な倫理・行動の指針を制定した「倫理綱領・行動規範」を冊子にまとめ、全社員に配布し意識を高めています。



倫理綱領・行動規範

倫理綱領

三菱UFJリースグループの倫理綱領は、グループとして共有すべき基本的な価値観や倫理観を定め、グループの役員・社員等の基本的な指針とするものです。

1 信頼の確立

グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。

2 お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する商品やサービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

3 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルに展開する企業グループとして国際的に通用する基準も尊重します。

4 人権および環境の尊重

お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。

5 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。

グループのコンプライアンス推進

三菱UFJリースではグループ全体で同レベルのコンプライアンス体制を確立するため整備を進めています。各社の状況に即した「コンプライアンス・リスクマップ」を作成し、1年に1回、リスクマップの見直しを実施。その精度を高めるためグループ会社と法務コンプライアンス部で詳細な打ち合わせを行うとともに、6ヶ月ごとにコンプライアンス推進施策の実施状況をアンケートや現地訪問によりモニタリングしています。また、個々のグループ会社に即した法務体制の構築についてもサポートをしています。



特集

地球温暖化対策として注目を浴びる

排出権関連ビジネス

排出権を活用したビジネスを通じ
お客様の環境活動に貢献します。

地球温暖化を緩和するために、京都議定書の締結をはじめとして、温室効果ガスの削減対策が国内外でさまざまに進められています。中でも近年、特に注目されているのがカーボンオフセットという考え方です。

このカーボンオフセットとは、日常生活や経済活動でCO₂排出の削減努力を行いつつも、自助努力での削減が困難な部分については、温室効果ガス削減プロジェクトへの投資や排出権の購入を行うことで、発生した温室効果ガスの全部または一部をオフセット（相殺）し、その排出を実質ゼロにしようという仕組みのことです。

三菱UFJリースは2008年より専門組織であるオフセットサービス室を設置し、排出権ビジネスに本格参入しました。私たちが取り扱う排出権は、国連の認証を受けた温室効果ガス削減プロジェクトから得られた排出権など、信頼性の高いものなので、安心してご利用いただけます。排出権のご利用をお考えの際はお気軽にご相談ください。環境意識の高いお客さまのご要望をトータルにサポートします。



市場開発部
オフセットサービス室
室長 牧野 佐和子

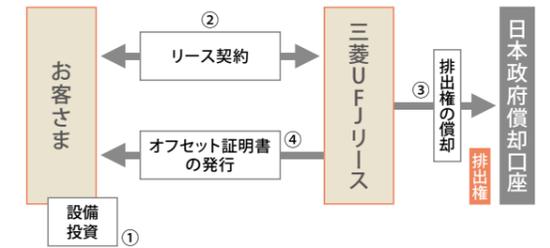
カーボン ナチュラルリース

環境に配慮した設備投資を。
煩雑な手続きもすべてサポートします。

カーボンナチュラルリースは、リース物件に排出権を割り当てることで、その物件が排出するCO₂の全部または一部をオフセットするサービスです。

通常、排出権を購入して利用する場合には、排出権の調達、管理、日本政府償却口座への移転など煩雑な手続きが必要になりますが、カーボンナチュラルリースをご利用いただくと、すべての事務手続きを三菱UFJリースがお客さまに代わって行います。また、お客さま自身で排出権を購入する必要がないので、バランスシートへの計上も不要となります。取引単位も、一般的に自社で排出権を購入するには1,000トン単位になりますが、それが設備投資単位で利用可能になるため、必要な量だけを柔軟にご利用いただけます。

■ スキーム



- ① 導入される設備から排出されるCO₂排出量をお打ち合わせします。
- ② 専用のカーボンオフセット付きリース契約を締結します。
- ③ 弊社で排出権に関する手続き（調達、管理、政府口座への償却など）を行います。（お客さまで排出権取得に伴う煩雑な手続きは不要です）
- ④ 弊社から政府口座への償却を証明する「オフセット証明書」を発行します。

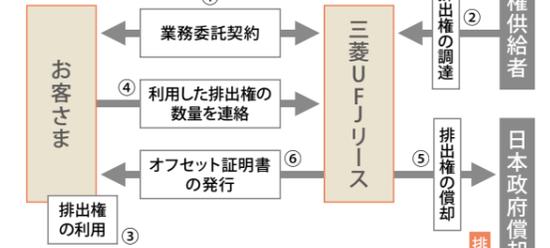
オフセット パートナーサービス

排出権を必要な量だけ手軽に利用。
調達から管理までトータルに提供します。

排出権付き商品の開発、展示会で排出されるCO₂のオフセット、自社工場のオフセットなど、地球環境を考えるお客さまならではのカーボンオフセットプランをサポートします。

三菱UFJリースでは、リースビジネスで培ったノウハウをもとに「排出権を持たずに利用する」という新しいカタチの排出権サービスをご提供しています。お客さまは排出権を保有することなく、必要な量だけで活用いただけるほか、排出権の調達、管理、償却などの諸手続きを当社がお客さまに代わって行いますので、手続きの負担なく手軽にご利用いただくことが可能です。計画の立案段階から商品・サービスの展開、コンサルティングまでトータルにご提供しますので、これまで排出権の取り扱いにご不安のあったお客さまも安心してお任せください。

■ スキーム



- ① お客さまは弊社と「業務委託契約」を締結します。
- ② お客さまに代わって、弊社が排出権を調達・管理します。
- ③ お客さまは排出権を利用します。
- ④ お客さまは利用した排出権の数量を弊社にご連絡いただけます。
- ⑤ 弊社は排出権を政府口座へ償却する手続きを行います。
- ⑥ お客さまに弊社より政府口座への償却を証明する「オフセット証明書」を発行します。

オフセットパートナーサービスの事例

「JR九州ウォーキング」のイベントで生じるCO₂をオフセット。

九州旅客鉄道様（JR九州）が2009年春・秋、2010年早春に開催する「JR九州ウォーキング」でオフセットパートナーサービスをご利用いただいています。同イベントに参加される方が、鉄道の利用を通じて排出するCO₂を、カーボンオフセットすることで、鉄道を利用してウォーキングに参加する際のCO₂排出量を実質ゼロにします。当社は、排出権の調達から管理、専用口座での償却手続き、証明書の発行に至るまでのサービスを行います。



IR活動の目的と基本方針

三菱UFJリースでは「経営方針、事業戦略、事業活動、財務状況などに関する情報を、正確、迅速、公平、積極かつ継続的に提供することで、株主、投資家のみなさまから信頼と適切な評価を得ること」をIR活動の目的・基本方針としてさまざまな取り組みを行っています。

また、情報開示の拡充や開示内容の質の向上を図り、株主や投資家のみなさまに当社の事業展開全般について理解を深めていただけるように努めています。

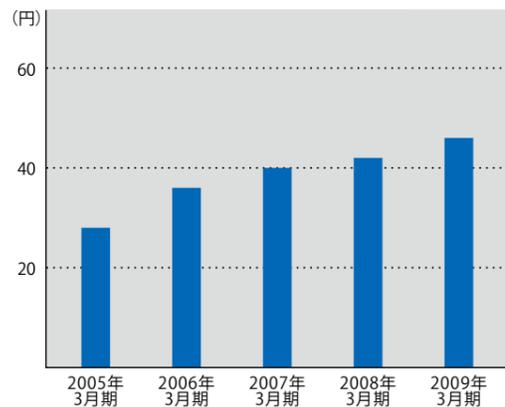


IR情報
http://www.lf.mufg.jp/investors/

株主還元と企業価値の向上

三菱UFJリースは、中期経営計画で掲げた各種戦略を着実に実行し、収益基盤・財務基盤を強化していくことで、株主還元の充実と持続的な企業価値の向上を図り、株主や投資家のみなさまのご期待に応えていきます。

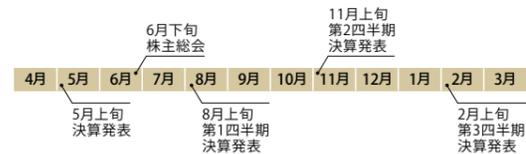
■ 一株当たりの配当金の推移



株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR活動を通して株主や投資家のみなさまとのコミュニケーションを活発にし、三菱UFJリースグループに対する理解の促進を図っています。

■ IRカレンダー (2009年度)



● 国内機関投資家向けIR活動

年2回決算説明会を開催し、代表取締役が機関投資家やアナリスト向けに決算概要や事業戦略について直接説明しています。また、各種取材を通じて、企業情報の積極的な開示に努めています。

● 海外機関投資家向けIR活動

主に米国、ヨーロッパ、アジアなどを定期的に訪問し、説明会の開催や個別面談を実施しています。

● 個人投資家向けIR活動

IRイベントへの出展やHPへのタイムリーな情報開示、お問い合わせ窓口の設置などを通じて個人投資家のみなさまとの双方向コミュニケーションの活性化に努めています。

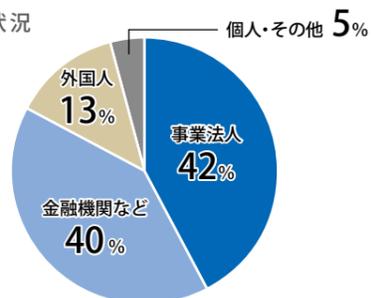


ヨーロッパでのIR説明会



名証IRエキスポ

■ 株主の状況



積極的なIR活動を展開。

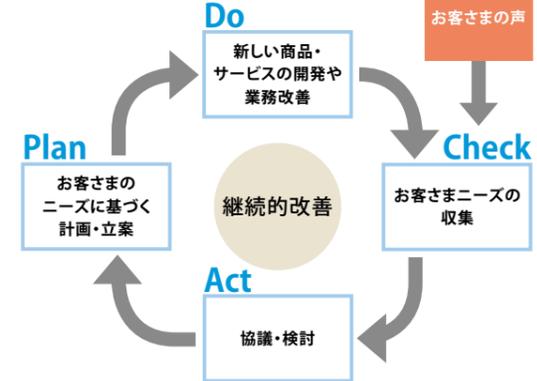
公平で迅速な情報開示と活発な対話を通じて

時代に即した商品・サービスを創造し お客さまのビジネスを支援。

お客さま満足度の向上とPDCAサイクル

ユーザーやサプライヤーの声を企業活動に活かしてお客さま満足度の向上につなげていくため、PDCAサイクルを導入しています。Plan (計画・立案) → Do (実施) → Check (調査) → Act (改善) のサイクルを回していくことによって、お客さまのニーズを的確にとらえた新しい商品・サービスの開発、業務改善などを継続的に進めています。

■ PDCAサイクル



海外事業進出サポート

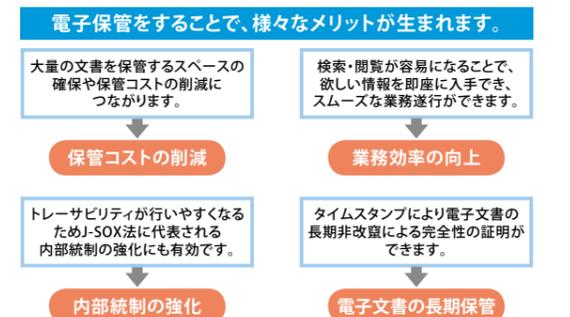
三菱UFJリースでは、中期経営計画に基づいてグローバルベースでの事業展開を加速し、お客さまの海外事業進出をサポートするため、ネットワークの充実を進めています。2008年はベトナムに駐在員事務所を設立し、中国上海の駐在員事務所の現地法人化を実現しました。また、三菱商事と共同で、サウジアラビアの総合リース事業やトルコのオートリース事業にも参入しています。今後も、お客さまの海外進出ニーズに応えるため、積極的に海外での事業展開を進めていきます。



e-Leasing Direct (イーリーシングダイレクト)

リース契約に関する一連の手続きをインターネット上で行えるサービスが **e-Leasing Direct** です。手続きの電子化により、書類保管コストの削減につながるほか、「いつ」「だれが」「なにを」したかが記録されトレーサビリティが確保できるため内部統制の強化にも有効です。また、リース資産管理のデータベース化により管理業務の軽減化・効率化が図れるとして、特に多数の物件を管理する必要のあるお客さまに高く評価いただいています。2008年4月に改訂されたリース会計基準にも迅速に完全対応するなど、制度の変更やお客さまのご要望にスピーディに対応し、随時バージョンアップを図ってサービスを拡充させています。

■ 電子文書・保管によるメリット



商談会

「Business Link 商賣繁盛」

業種を超えたお客さまの交流の場となることを目的とした「第6回 Business Link 商賣繁盛」(三菱UFJ フィナンシャルグループ主催)が2009年2月19日に幕張メッセで開催されました。6回目となる今回は「環境」「グローバル」「食・農業」をテーマに約300社がブースを展示し、約2,300社6,500名のお客さまにご来場いただきました。



ブース展示



商談会

就業支援

育児休業利用者
22名

● 出産・育児支援制度

三菱UFJリースでは、出産や育児をする社員が働きやすく、子育てと仕事を無理なく両立していけるように、出産・育児の支援制度を充実させています。2008年度の産前特別休業利用者は11名、育児休業利用者は22名でした。

制度の充実とともに、制度を利用しやすい環境・雰囲気醸成にも努め、女性・男性ともに安心して仕事に取り組める職場づくりを推進しています。

■ 主な支援制度

産前特別休業	出産予定日の6ヶ月前から
育児休業	子どもが2才になるまで
出産記念休暇	妻が出産する男性社員に2日まで
短時間勤務	妊娠中の女性社員、小学校就学前の子どもがいる男女社員に1日2時間まで
看護休暇	年10日まで

働きやすい環境づくり



ワーク・ライフ・バランスセミナー

● ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和を図るというワーク・ライフ・バランスの考え方をもとに、各種制度・環境の整備を進めています。それと同時に、制度を活かすには職場での意識の醸成が次なる課題という認識に立ち、上司である部店長、次課長向けにワーク・ライフ・バランスセミナーを実施し、理解向上を図っています。

また、2009年より、次世代の女性リーダー育成に主眼を置いた「女性リーダー養成塾」を開始。社外の女性キャリアを招いて講演を行うなど受講した女性社員がリーダーとして自立するとともに、後に続く社員にとってのロールモデルとなることを目指しています。

● ヘルスケアサポート体制

社員が心身ともに健康を維持しながら仕事において十分に能力を発揮できるように配慮することも企業の社会的責任と考え、三菱UFJリースでは専門医療機関と連携した「ヘルスケアサポート体制」を整備しています。各部店にはヘルスケア担当者を配置。24時間健康相談、無料カウンセリング、医療機関紹介、ストレスチェックなどの体制を確立し、社員の健康管理のサポートに努めています。

● オープンオフィス

社員満足度向上の一環として、社員が家族を連れて本社内を案内するオープンオフィスが2008年8月22日に開催され、約100名の家族が参加しました。当日は社員執務フロアのほか社長室や役員応接室も開放。「家族に働いている姿を見せることができた」と社員からも喜ばれました。



オープンオフィス

キャリアアップ

● 教育研修制度の概要

総合ファイナンスカンパニーにおけるプロの人材として必要不可欠な金融知識や、お客さまニーズを把握し効果的な提案のできるスキルなどを継続的に高めることを目標に研修制度を整備。知識だけでなく意識部分の研修も行い、自立型人材への成長を促しています。また研修内容は随時見直しを行い、ブラッシュアップしています。

働きやすい職場づくり。 社員がいそいそと健やかに働ける

体系的な教育研修制度。 グローバルな金融ビジネスを見据えた

● 新入社員基礎研修

早期に戦力となるため、ビジネスマナー、会計・法務・財務分析、業務に関する基礎知識や商品知識などを約1年かけて学びます。



新入社員基礎研修

VOICE

社外の方からの声

株式会社大原キャリアスタッフ 大原人材開発センター
センター長 相川久雄様

三菱UFJリースの新入社員向けのビジネスマナー研修を担当しています。研修は単なる座学ではなく、体験学習を軸に「気づき」を重視した構成としています。自ら真剣に考えて学んだことは、何年かを経て振り返った際にその意味を実感できるものですが、そうした研修でありたいと思い、「考える」ためのさまざまな工夫を取り入れています。三菱UFJリースの研修は、常に現場に密着した内容となっており、これから実務に携わる新入社員の方にとって大きな力となる大変優れたものと考えています。



● 社内ビジネススクール

若手層を対象としており、ロジカルシンキング、アカウントティング、マーケティング、ファイナンス、リーダーシップ、経営戦略など、営業力強化に直結するスキルを学びます。

● トレーニー制度

広い視野で最先端の理論・スキルを習得するため、国内外の大学、ビジネススクール、企業などへ派遣しています。

● コース転換制度

自らの希望によりキャリア設計を選択できるコース転換を認めています。一定の水準を満たすことが条件で、2008年度には3名がコース転換しました。

● グローバル人材育成制度

語学力やファイナンス能力を磨き、グローバルビジネス分野で活躍できる人材を育成するため、グローバルビジネススクール、海外トレーニー、語学学校への派遣など多様なプログラムを設けています。

■ 研修・トレーニススケジュール

	4月～5月	6月～7月	8月～9月	10月～11月	12月～1月	2月～3月
社内研修制度	キャリア開発育成プログラム					
	若手人材育成プログラム					
	上期 グローバルビジネススクール			下期 グローバルビジネススクール		
	社内ビジネススクール(実施時期未定)					
	メンター研修	基礎研修	営業スキルアップ研修	事務フォロー研修		
マイナード型	各種業務研修および、営業社員向けスキルアップ研修(実施は不定期)					
	新入社員マインドセット	新任部店長研修	若手キャリア研修	新任次課長研修	OJT研修	
トレーニー制度	海外トレーニー(英国・米国・バンコク)					
	上期 香港トレーニー			下期 香港トレーニー		
	国内トレーニー①					
	国内トレーニー②					
	マネジメントスクール派遣					
語学スクール派遣						
国内トレーニー③						



社内ベンチャー制度

新たな企業風土の醸成と新規事業機会の創設を目的として、社内ベンチャー制度を2007年よりスタートしました。社員に自ら発案した新規事業案を実現するための場とチャンスを提供するもので、社員の中にチャレンジ精神を喚起し、新しい事業や改革に対する議論を活性化させることを主たる目的としています。現在までに2回の募集があり、2008年7月に初の社内ベンチャー企業として「グローバル・アセット・ソリューション」が誕生しました。

ベンチャー子会社概要

会社名：グローバル・アセット・ソリューション株式会社
 資本金：250万円(内、起案者が30万円を出資)
 事業概略：大手メーカーを中心とした工場施設全般の、処分から導入までのコンサルティングビジネス。三菱UFJリースの「信用力」を武器に、新たな切り口でお客様の設備に関するストレスを解消します。
 設立：2008年7月
 ※起案者(3名)が取締役に就任しました。

VOICE グローバル・アセット・ソリューション株式会社 社員一同

グローバル・アセット・ソリューション株式会社は、昨年7月に社内ベンチャー制度を利用して設立した三菱UFJリース初のベンチャー子会社です。お客様の遊休化した設備の買取から入替への提案、廃棄までトータルにコンサルティングを行い、最適なソリューションをご提供します。まだ設立後1年を経過していませんが、お客さまからは着実に評価を頂いております。これからも、お客さまの満足度を高めていきたいと思っております。



社内公募制度

2007年度より、社内公募制度を導入しました。本制度は、高いモチベーションをもつ意欲的な社員が自らの意思で応募し、選考ステップを経ることで希望する部署に異動することができるものです。これまでに、以下のような部門において募集が行われ、すでに何名もの社員が各分野において活躍しています。今後も、社員が自らの意思でキャリアを切り拓くことを可能にすることで、自由闊達な企業風土の醸成を図っていきます。

社内公募制度実施部門

- オペレーティングリース営業部
- 産業機械部
- ストラクチャードファイナンス部
- 海外日系営業部
- 環境事業部
- 医療福祉部

VOICE 「社内公募制度」利用者の声

海外日系営業部 三島 加奈子

入社以来4年半同じ部署に在籍し、他部署の業務経験を積みたいて考えていたとき、希望していた海外日系営業部の募集があり、自らの力で自分の道を決定するチャンスだと思って社内公募制度に応募しました。自ら希望した部署ということもあり新鮮な感覚でした。これまで実践してきた担当顧客に対する営業とはスタイルが違うので、初めは戸惑いもありましたが、社内を横断的に見て業務ができることに面白さを感じています。専門家の集団なので、日々勉強し知識を習得することも刺激になっています。



役員合宿

役員合宿を定期的実施し、中期経営計画の進捗状況の共有や今後に向けた施策を議論しています。社員から寄せられた意見やアイデア、現場で得た情報も議論に活かしています。

社員の意欲とアイデアを引き出せる自由闊達な職場に。

コミュニケーションを活性化して社員の参画意識を促進。

社長と語る会

中期経営計画にもある「自由闊達な企業文化の構築」を目指し、社長と社員がざっくばらんに話し合える「社長と語る会」を実施。社員は日頃考えていることを直接社長に伝えられ、社長は社員の顔を見ながら自らの思いを伝えることができる新たなコミュニケーションの機会となっています。参加者は若手から次課長クラスまで幅広い年代におよび、1回10名弱の少人数で軽食を取りながら行われます。2008年度は10回実施され、約100名が参加しました。

参加者
約100名



社長と語る会

VOICE 「社長と語る会」参加者の声

審査第一部 課長代理 山下 尚志

初めは緊張していましたが、途中からはリラックスしたムードの中、忌憚のない意見交換を行うことができました。会社に対する社長の率直な考えを聞くことで、組織の中における自分の役割についての認識も深めることができました。このような場のおかげで、自分が今何をすべきか、組織にどのような形で貢献できるかを自分自身に問い直すことができました。



シリーズ広告

2008年6月より広告コンセプトとして「解決方法を、変えてみる。」を採用し、社員が登場する新聞広告シリーズを展開しました。本シリーズは、実際に働く社員が登場することで、お客さまの身近なパートナーとして、従来とは視点を変えた解決方法の提案を目指したほか、社員が直接メッセージの発信者となることで、社員自身の意識向上に繋げることを目的としました。このコンセプトをもとに、私たち自身が既存の考え方に縛られずに、柔軟な発想をもって取り組んでいくことが重要であると考えています。



新聞広告

VOICE 「シリーズ広告」登場社員の声

海外日系営業部長 谷口 久和

広告への反響は想像していた以上に大きく、掲載後に多くのお客さまや知人から「新聞を見たよ」という言葉をかけていただきました。メッセージの持つ力を実感するとともに、私自身がお客さまによりよいサービスをご提案するために、日々の業務において「解決方法を、変えてみる。」を実践していきたいと改めて強く思いました。



ジョブシャドウ

参加高校生
110名

三菱UFJリースではジュニア・アチーブメント日本、東京都教育委員会との共催で、2008年7月28日に「ジョブシャドウ」(職場体験)を実施しました。MUFGグループ全体では都立高校生110名が参加、そのうち9名が当社を訪れました。「ジョブシャドウ」は、米国に本部を置く世界最大の経済教育NPO団体・ジュニア・アチーブメントが実施する、中高生を対象とした教育プログラムで、「仕事をしている人を見る」ことに主眼を置いています。半日間、影のように社員に密着して行動した生徒たちからは「仕事に対する熱意が感じられ貴重な体験ができた」などの感想が寄せられました。



ジョブシャドウ

VOICE

「ジョブシャドウ」参加者の声

経理部 チームリーダー 小澤 博史

このような取り組みに参加するのは初めてでしたが、「仕事をしている人を見る」という本プログラムの趣旨に沿えるよう、打ち合わせにも参加してもらいました。熱心に取り組む生徒さんの姿を見て、私も初心を思い出しました。今回の試みは、私自身にとっても貴重な体験になりました。



「森林再生ビジネス検討会」への参画

三菱UFJリースは2009年3~9月、環境省主催の「森林再生ビジネス検討会」に参画。この検討会は、森林再生ビジネスを再生させ環境対策や地域振興に役立てようと、産官学の連携により設置されたものです。この取り組みを通じ、森林の持つ環境機能(CO₂吸収、土砂災害防止など)の向上、環境負荷の少ない森林資源を使った循環社会の構築、山林過疎地域に新たな就労機会を作ることによる地域振興などの効果が期待されています。



森林再生ビジネス検討会の調査風景

清掃活動ボランティア

個人や有志レベルでもさまざまなボランティアに取り組んでいます。2008年6月1日、九州支店およびグループ会社の有志はその家族と清掃活動「ラブアース・クリーンアップ2008」に参加。2009年2月3日には第5営業部が白浜海岸の清掃ボランティアを行いました。



ラブアース・クリーンアップ2008

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

三菱UFJリースが加盟している三菱広報委員会は、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、社団法人ユネスコ協会連盟とともに「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を開催しています。本事業は、絵日記を通してアジアの子どもたちの交流と、識字教育の支援を目指し、1990年より実施しています。



三菱アジア子ども絵日記フェスタ 地方展示会の様子

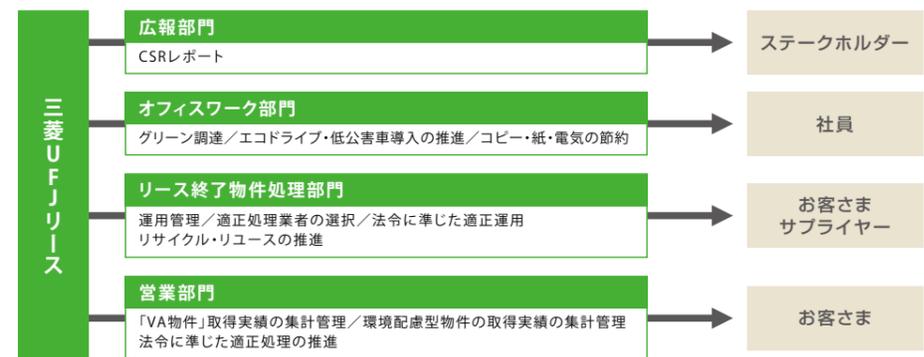
子どもたちや環境の未来を見つめて 社会への貢献活動を実施。

持続可能な社会への貢献を目指し 環境負荷低減を重視。

環境に対する考え方

三菱UFJリースでは、モノを扱うリース事業において環境への配慮は社会的責任の一つと考え、事業活動における環境負荷低減に注力しています。中期経営計画では重点戦力分野として環境ビジネスの推進を掲げ、ESCO事業、環境ファイナンス、グリーンリース、排出権関連ビジネスなど、環境に関するサービスを拡張しています。環境マネジメントシステムの充実にも努め、グループ会社も含めてISO14001認証を取得。また、日常業務においても省資源に取り組んでいるほか、地球温暖化防止を呼びかける国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に2006年度から参加するなど、全社をあげて積極的に環境活動に取り組んでいます。

環境活動フロー



環境目的・目標

環境目的	部門	2009年度目標	中長期目標
報告書	広報	CSRに関連する活動の報告書作成。	CSRに関連する活動の報告書を発行し、随時レベルアップを図る。
省資源	オフィスワーク	(1) グリーン調達およびエコドライブ・低公害車導入の推進。 (2) コピー・紙・電気の節約。	(1) グリーン調達およびエコドライブ・低公害車導入の推進。 (2) コピー・紙・電気の節約。
省エネルギー		チェックリストを用いた日常的な運用管理。 (1) 車両の使用。(2) 倉庫照明の電力節約など。	日常的な運用管理の徹底と、運用実績などに応じた改善・見直し。
違法	リース終了物件処理	(1) チェックリスト・手順書などに基づく適正処理業者の選択。 (2) 改正廃掃法、家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じた適正運用(リース終了物件の不法投棄の防止)。 (3) リース終了物件のリユースの推進。	(1) 厳格なマニフェスト管理。 (2) 厳格な処理業者選定および優良な処理業者とのチェック＆バランス体制確立。 (3) 家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じ、3Rの推進、環境汚染の防止。 (4) 記録管理・処理内容把握によるリユース推進。
廃棄物の低減(リユースの推進)	営業	売却・手解体による資源リサイクル・リユースの推進。 (1) 「VA物件」の取得実績の集計管理。 (2) 環境配慮型物件の取得実績の集計管理。 (3) 自動車リサイクル法に準じた適正処理を推進。 (4) 建設リサイクル法に準じた適正運用。 (5) 土壌汚染対策法に準じた適正運用。	売却率・廃棄量の実績をもとに、効果的な手解体によるリサイクル・リユース体制を検討・推進。 (1) 再販・再リース可能物件の選定力育成と、手法確立。 (2) VA物件、環境配慮型物件の取得割合の把握。 (3) 使用済み自動車のリサイクル・適正廃棄。 (4) 建設リサイクル法に準じ、資源の有効利用・適正処理。 (5) 土壌汚染対策法に準じ、土壌汚染による健康被害防止。

エコオフィス推進

オフィスでの活動も環境に配慮し、グリーン調達やコピー・紙・電気の削減に向けて継続的な取り組みを続けています。また、エコドライブを推進しており、自動車を使用する部店では「エコドライブ活動報告書」により毎月状況を確認し、環境負荷低減に努めています。

ISO14001認証

三菱UFJリースでは、企業活動が環境に与える影響を重視して早くから環境マネジメントシステムの構築を進め、2001年よりISO14001認証を取得しています。

2008年12月には「第6回サーベイランス審査※兼変更審査」を受審し、登録維持および登録事項変更が承認されました。

※ISO14001における定期審査を2008年より呼称変更。



■ 環境会計

2008年度の環境会計は、以下の通りです。

分類	環境保全コスト	
	主な取り組み内容	2008年度
事業エリア内コスト	公害防止(エコカーリース料)	75
上・下流コスト	引揚機の処分費用	297
管理活動コスト	ISO事務局コスト、環境マネジメントシステム維持運営コスト、CSRレポート作成コスト、環境教育コスト他	4
社会活動コスト	寄附金など	5

環境保全に伴う経済効果	
主な取り組み内容	2008年度
中古部品売却益(MULエコビジネス)	29

■ 環境法令一覧表(一部掲載)

環境影響	適用される法	管理点
1 廃棄物	廃棄物処理法(第12条3項)	産業廃棄物の運搬・処分を外部委託する場合は、定められた資格を有する業者であること。
2 廃棄物	廃棄物処理法(第13条の3、第19条の5)	マニフェスト管理(報告・保管などの義務あり)。
3 廃棄物	廃棄物処理法(第16条)	不法投棄の禁止。
4 建物工事発注、廃棄	建設リサイクル法	一定規模以上の建物工事(新築・増築・解体など)は、 (1)知事への届出。 (2)分別解体・再資源化に関する費用負担。 (3)リサイクル建材の使用。
5 廃棄物	家電リサイクル法	特定家庭用機器は、 (1)長期間使用し廃棄物の排出を抑制。 (2)廃家電として廃棄する場合は家電リサイクル法により適切に処理。
6 廃棄物	フロン回収破壊法	業務用エアコン・業務用冷凍冷蔵庫・飲料自動販売機などのフロン内蔵物は、 (1)適正・確実な回収・破壊措置。 (2)フロン類の排出抑制(一部、廃棄やリサイクル目的での譲渡に回収依頼書などが必要)。
7 土壌	土壌汚染対策法	土地の所有・投資は、土壌汚染対策法の調査、または指定区域になるおそれのある土地でないことを確認。
8 廃棄物	自動車リサイクル法	使用済自動車のリサイクル・処理は、適正業者によって適正・適法に行われているかを確認。
9 廃棄物	PCB廃棄物特措法	PCB廃棄物は適正処理し、譲渡・譲受は禁止。保管の届出、処分期限、合併・分割の届出などの適正管理。
10 大気	自動車NOx・PM法	事業活動に伴うNOx・PMの排出抑制計画やその実施状況を知事に報告。

社員への環境教育

個々の社員が高い環境意識を持ち、それを業務の中で実践していくことを目指して、三菱UFJリースではさまざまな研修などを通じ環境教育を実施しています。また、常日頃から環境問題を絶えず意識できるように、「環境方針」を記した「環境方針カード」を全社員が携帯。3ヶ月に一度の「グリーンの日」には、環境活動への取り組み事例などを掲載した「環境かわら版」を配布し、啓発活動を展開しています。



環境かわら版

環境への影響が大きい業務(リース終了物件処理業務、建設リサイクル法・土壌汚染対策法の対象物件処理業務)については特別の教育・訓練を実施。スキルチェックシートで理解度を確認し、適正と認定を受けた者が従事しています。

環境事故・法令違反

2008年度も環境事故・法令違反は0件でした。今後も環境教育を通じ、社員の環境意識の維持・向上と法令遵守の徹底に努めていきます。



環境への取り組みを浸透。

日々の業務のすみずみにまで

環境配慮活動と事業展開。

循環型社会への対応を目指した

3Rの取り組み

循環型社会のキーワードである3R。三菱UFJリースではリース終了物件に対してリデュース(廃棄物の低減)、リユース(中古市場で活用)、リサイクル(再資源化)の3Rを推進し、廃棄物削減に取り組んでいます。

リデュース	再リースや転売により製品使用期間を延ばして廃棄物を削減
リユース	再リース、中古品として販売
リサイクル	原材料として再利用

VA物件取得活動の推進

機器・設備の中には、リース終了後も転売や再リースが見込まれるものがあります。そうした物件を「VA(=Value Asset)物件」と呼び、三菱UFJリースではこうした物件の取得を積極的に推進しています。

VA物件は時間の経過による資産価値の劣化が遅く、一般に長期にわたって使用できるので、VA物件を有効活用することにより廃棄物を削減でき、循環型社会への貢献につながると考えています。

廃棄物処理委託業者選定

3Rを徹底した後の廃棄物については、委託した廃棄物処理業者によって法令を遵守した適正な処理を施し、環境への負荷をできる限り抑制しています。

処理業者の選定は、財務状況、保有設備、再資源化率など、当社規定の厳格な基準をクリアしていることに加えて、実際に処理現場を視察して設備稼働状況や管理状況、経営者の姿勢などをチェックし、総合的に判断します。また、委託後も定期的に現地視察を行い、適正に運営されているか確認しています。

ESCO事業

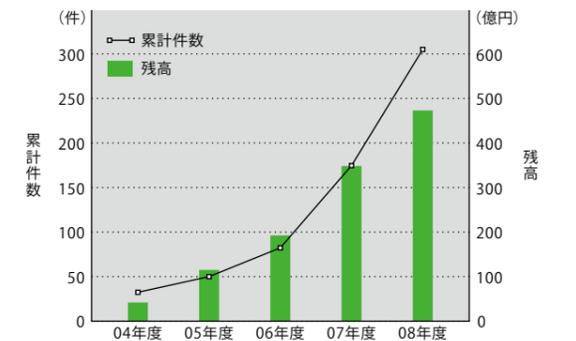
ESCO(Energy Service Company)事業は、ビルや工場、ホテル、病院などの施設を改修して省エネルギー化し、経費と環境負荷の軽減を同時に実現するサービスです。お客様の施設に応じて、エネルギー診断、計画立案、改修工事、効果の検証、保守・管理までの一切のサービスを包括的に提供します。三菱UFJリースは、ESCO事業が日本に導入された草創期から積極的に取り組んでおり、これまでの取扱件数は累計で310件(2009年3月末現在)とトップクラスの実績を誇っています。



■ 事業フロー



■ ESCO事業の実績推移



■ 優良ESCO事業受賞

2009年2月、財団法人省エネルギーセンターが主催する「第4回優良ESCO事業」において、当社の取り組んだ事例が「金賞」と「銅賞」を受賞しました。「金賞」を受賞するのは金融会社として初めて。今回の2件で、三菱UFJリースの受賞は累計で5件となりました。

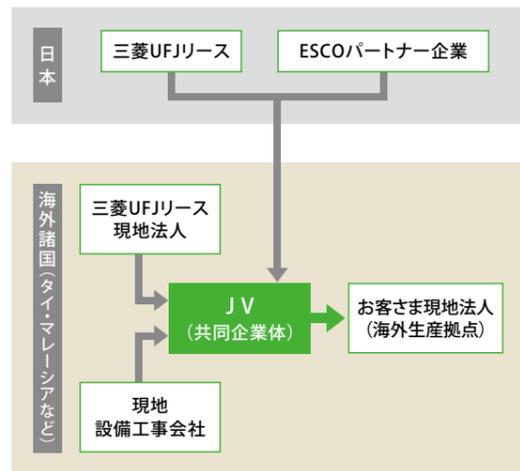


金賞受賞案件(シノムラ化学工業様)

省エネ・グローバルサポートセンター設置

2008年6月、省エネ・環境関連サービスをグローバルに本格展開するため、「省エネ・グローバルサポートセンター」を新たに設置しました。これは、海外に進出するお客さまの省エネニーズにお応えするため、これまで国内事業所を対象に提供してきたESCOサービスを、企業の海外生産拠点においても提供できる体制を構築したものです。また、ESCOサービスによって得られたCO₂排出量の削減効果を排出権(CER)として証券化することまでのフルサポートも行っています。

海外ESCOサービスのビジネススキーム例



エコピープル

三菱UFJリースでは、部店単位でも環境に対するさまざまな取り組みを行っています。その一環として「環境社会検定試験(eco検定)」に合格し「エコピープル」となる社員が増えています。この検定は、環境に対して幅広い知識を持ち、社会の中で率先して環境問題に取り組む人づくり、そして、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」を目指し東京商工会議所が実施しているもので、合格者は敬意を込めて「エコピープル」と呼ばれています。

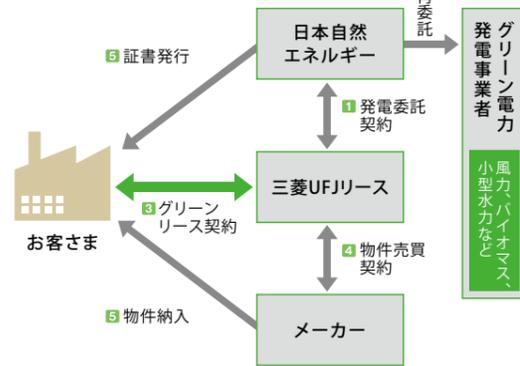


eco検定に合格した第5営業部の薬科さん(左)、小久保さん(右)

グリーンリース

リース物件が消費する電力の一部を、風力発電やバイオマス発電などCO₂を発生させず環境負荷の低いグリーン電力によってまかなうサービスです。様々なメーカーと連携して、環境対応に優れた機械・設備を対象機種として選出し、環境に配慮した機械・設備の導入促進と自然エネルギーの発展に貢献します。導入されたお客さまには「グリーン電力証書」が発行されますので、環境保全活動の一つとして会社案内などでPRしていただけます。

グリーンリースの仕組み



環境ファイナンス

リサイクル、廃棄物処理、新エネルギー事業などの環境ビジネス事業者へファイナンスを行い、事業計画の実現をトータルにサポートします。コーポレート型のファイナンス手法に加え、事業の収益性や安定性に重点を置くプロジェクトファイナンスの手法を取り入れることで、これまで難しかった規模の資金調達にも対応。事業用地の購入からプラント建設まで多様なニーズにお応えします。

融資実行までの流れ

融資実行までの流れは案件ごとに異なりますが、標準的な案件の場合は以下の通りです。(数社での協調融資取り組みの場合)



環境対策をサポート。

お客さまの省エネ・環境関連のニーズに応え

中古機器売買ビジネスを推進。

廃棄物の削減など環境に配慮した

中古機器売買ビジネス

三菱UFJリースグループではリースという「モノ」に関わる事業における廃棄物削減などの社会的責任を認識し、早くから中古機器売買ビジネスを展開。中古機械設備を有効活用することで、環境への負荷を減らすとともにお客さまのコスト削減にも貢献しています。

●DRS(ダイヤモンドレンタルシステム株式会社)

レンタルPCの導入から運用・管理・処分に至るまでのトータルサービスの提供に加え、法人向けにPCや周辺機器の中古品売買も行っています。標準サービスとして実施しているレンタル物件の契約終了後のデータ消去、満了物件の細分化管理など信頼性の高いサービスを展開しています。



ダイヤモンドレンタルシステム株式会社

●MULエコビジネス株式会社

三菱UFJリースグループにおいて契約終了となったPCやOA機器を回収し、ゼロエミッションに迫るリユース・リサイクルを行っています。回収したPCは自社一貫体制でデータ消去など情報漏洩防止対策を徹底し、グループ全体のリース物件の「出口の信用」を支えています。



MULエコビジネス株式会社

●エム・キャスト株式会社

中古医療機器の販売・買取を行う業界トップクラスの専門商社。多彩な品揃えときめ細かなサービスで医療経営をサポートします。また業界で初めてISO9001を取得するなど品質管理を徹底し、安全性の高い機器をご提供しています。



エム・キャスト株式会社

●株式会社ユーマシン

物件の買取から販売までトータルに行う中古産業工作機械の専門商社。メーカーを問わず多様な機械を取り扱っており、長年蓄積したノウハウを活かし、在庫商品を最適な状態にメンテナンスすることで、お客さまに高品質・高価な物件をご提供しています。



株式会社ユーマシン

●ダイヤモンドイクイップメント株式会社

グローバルに中古半導体製造装置の仕入・販売を実施。国内外の半導体デバイスメーカーや中古機器取扱商社から幅広く仕入れているほか、米国の中古半導体製造装置の大手商社TLCイクイップメント社と業務提携し海外での仕入・販売も行うなど、積極的に事業展開しています。



半導体業界における国内最大イベント「セミコン・ジャパン」に出展

●エコキャップ収集活動

ペットボトルのキャップを集めて有償で売却し、ワクチン代に充て、世界の子供たちに贈る運動が全国的に広がっています。焼却すると6.2kgのCO₂を排出するペットボトルキャップ800個を資源として回収するとポリオワクチン1人分を買うことができ、子供たちの命を救います。三菱UFJリースでも、部店単位で自発的に行ってきたキャップ収集運動への参加者が増えています。



横浜支店での活動の様子



市場開発部での活動の様子